

巡回バスニュース

2006年3月1日 第18号

発行

大阪・地域巡回バスを走らせる会

松本市新座町 1056

大阪生活と健康を守る会 内

電話・ファクス 0598-23-4515

船江地域から

市長に署名提出

2月23日、栗山ミズ子さんなど船江団地に住む住民と、「バスを走らせる会」の馬場会長などが市役所に下村市長を訪れ、住民が集めた1800筆の署名を提出して、船江地域にも『鈴の音バス』を早急に走らせてほしいと、申し入れました。

市長と平田商工観光部長に対して、住民の代表は、「昨年9月30日で三交バスの小野江線が廃止され、大阪駅や松阪の中心市街地へ出るための交通機関がなくなり、買物や通院に高いタクシーなどを利用しなければならず、住民は本当に困っている。一日でも早く地域巡回バスを走らせて欲しい」と訴えました。

90歳になる錦さんは、大阪駅前にあるお墓へ月に3回参っていたが、バスが無くなってからは、それも出来ず、ご先祖に申し訳ないと思っています。私自身も高齢なので、一日でも早い運行を願っていると話し、松阪市の取組み

を尋ねました。

これらの要望に市長は次のように答えました。

「市民の皆様から、バスを走らせてほしいと言う声を沢山聞いています。私たちも市民の要求に応えたいと考えていますが、最近の景気の問題もあり、予算を縮小しなければならぬ状況なので困っている。三雲、嬉野、黒部地域などからも要望があり、市役所内のバス等交通システム検討委員会でも議論してもらっているところですが、なかでも、黒部地域の住民の要求は強く、バス停の設置費用を地元で負担したり、協賛金を自分たちで集めるなどの積極的な提案をされています。船江地域も巡回バスが必要な地域であるとして、最初は『鈴の音バス』のコースに予定されていたが、全体の運転時分を考えたとき、利用者の利便性を考えて、現在のルートになったこともあり、将来的には運行が必要だと考えている。バスの運行には、1ルートで約3000万円の費用が必要であり、『鈴の音バス』の利用者が当初の予測を大きく下回って運賃収入が伸びな

いので、新規路線の開拓が難しくなっている。皆さんももっと利用していただきたい。皆さんの要望は検討委員会に報告し検討いたします。」

昨年の11月19日に開かれた「地域巡回バス活動交流集会」に参加した人たちが、短期間に1800筆もの署名を集められた理由の一つに、船江団地北自治会に加盟している、シヨッピーングセンターマームの協力がありません。マームで働く人々も、通勤するのみに三交バスが廃止になり困っていたからです。

バスは、船江地域に住む人が必要とするだけでなく、その地域の職場へ通勤する人々にとっても大切な足であること考えれば、松阪市周辺の住民にとっても大切な交通手段なのです。

第2回世話人会開催

1月25日、第2回の世話会が日野町の市民活動センターで開催されました。

最初に、総会で承認された本年度の活動方針の具体化について、討議を行ないました。

その中では、新規路線の要求と署名運動をどのように行なうのか、署名運動を積極的に進んでいる地域を援助することや、自治会との協力関係の構築、運動に参加する人を増やしていく問題などが話し合われました。

続いて、『鈴の音バス』の利用促進活動について、利用者の利便向上のため、コースの一部変更やバス停の位置を住民本位にするなどの要望を行な

う。バス停ごとに名所・旧跡、公共施設を表示して、それを観光マップなどにも記載することにより、市民以外の利用者の増加を図る案などが出されました。

2月16日に開かれた第3回の世話人会では、短期間に1800筆の署名を集めた船江団地の人々と市長を訪問する問題や、名所・旧跡の調査を専門の団体に依頼することなどを決定しました。

ひとくちメモ

「パークアンドライド」

中心市街地の道路混雑解消のため、車を鉄道の駅やバス停に駐車して、そこからバスや鉄道に乗り換えることで、日本では郊外の住宅から近くのバス停まで車できて、そこからバスに乗り換えて鉄道の駅まで行くケースや、観光客が観光地から離れた駐車場に車を駐車して、そこからバスに乗り換えるかたちなどで行なわれている。

最近、四日市市内で郊外のバス停から近鉄とJRの四日市駅まで、午前中4本のバスを走らせ中心市街地への車の流入を少なくする試みがはじまっている。